

大学院管楽器 プロフェッショナル研究発表演奏会

極月を彩る管楽器の饗宴

2021年12月5日（日）

13:30開場/14:00開演

洗足学園音楽大学シルバーマウンテンIF

主催：洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Program

F.ドゥヴィエンヌ/フルート3重奏 ト短調より1、3楽章

Fl.1st 間木平美和 2nd 石井優菜 3rd 村松紀親

L.ロレンツォ/シンフォニエッタ Op.75

Fl.1st 吉村由望 2nd 石井優菜 3rd 府川悠理 4th 間木平美和 Alto 山崎春奈

J.M.ダマーズ/フルート、オーボエ、クラリネットとピアノのための四重奏曲

Fl.村松紀親 Ob.河村真歩 Cl.元村理乃 Pf.福島未紀

R.ピーターソン/Trio #1

Fl.府川悠理 Cl.二瀬結衣 Pf.斉藤光

Iris エイチン リョウ/1+1=3

Ob.河村真歩 A.Sax.清達哉 Pf.福島未紀

松下倫士/フルート、アルトサクソフォンのための「ディヴェルティメント」

Fl.吉村由望 A.Sax.澁谷隆宏 Pf.松下倫士

C.サン=サーンス（編曲：松下倫士）/死の舞踏

Cond. 松下倫士

Fl.1st 吉村由望 村松紀親 2nd 山崎春奈 間木平美和

3rd 石井優菜 渡部亨（教員） Picc. 府川悠理

Ob. 河村真歩 Cl. 元村理乃

A.Sax 1st 五十嵐蓮 2nd 澁谷隆宏 T.sax 清達哉 岩本伸一（教員）

B.sax Qianyi Xiao

Tp. 居石まどか（賛助） Tb. 望月稜香 Euph. 丸山奈央

Perc. 青柳はる夏 大西悠斗

Pf. 斎藤光（賛助）





Program Notes

1、フルート3重奏 F.ドヴィエヌ/フルート3重奏 ト短調 より1、3楽章

フランソワ・ドヴィエヌ(1759-1803)はフランスの古典時代を代表するフルーティスト、バスーン奏者、作曲家としてパリで活躍した。フルートやバスーンのための優れた協奏曲や室内楽作品、オペラ作品を作曲した。優雅な旋律形式から「フランスのモーツァルト」と呼ばれていた。「6つの三重奏曲」は「2本のフルートとチェロのためのトリオ」に基づき編曲されたものと言われている。今回はその中から技巧的かつ華やかな第二巻よりト短調作品19-5より1.3楽章を演奏する。
(院1年 間木平 美和)

2、フルート5重奏 L.ロレンツォ/シンフォニエッタ Op.75

イタリアのフルーティスト、作曲家、そして教育者でもあるロレンツォ(1875-1962)。フルーティストとしては、20世紀初頭からアメリカ、イタリア、南アフリカ等様々な管弦楽団で活躍した。

《シンフォニエッタ》は、当時とても珍しい編成ではあったが、後世に多大な影響を与えたこの作品は、やがて基本的な編成として定着していった。

第1楽章 Mattinata e Fughetta

澄んだ朝の空気の中、遠くから広がってくるオルガンのような響きは、軽やか且つ華々しい小フーガとなり次々と展開されていく。

第2楽章 Serenata breve a Pan

牧歌的なこの楽章。アルトフルートの温かみある旋律は、どこか懐かしさを感じさせる。

第3楽章 Allegro finale

穏やかに終わったかと思えば、突如、流れるような旋律で第3楽章が始まる。第1楽章の主題が次々と現れ、中間部では舟歌、続いてフゲッタ、技巧的なカデンツァが奏でられた後、最後の盛り上がりを見せ幕を閉じる。
(院2年 山崎 春奈)

3、混成4重奏

J.M.ダマーズ/フルート、オーボエ、クラリネットとピアノのための四重奏曲

ダマーズはフランスの作曲家、ピアニストである。ダマーズならではの、親しみやすい曲調であり、フランスの香りや響きがある。フランス近・現代音楽の作風で書かれてた、非常に芸術的な作品である。ピアノと木管楽器の巧みな楽器編成により、コントラスト、変化していく色彩、心の動きと感情が投影されている旋律、とても美しい世界観が描かれている。

ピアノと木管楽器のアンサンブルの対比が目ざましい。各楽器が特徴的な旋律を描き、徐々に和声的に展開していく。最後は、全パートが揃い、力強く終止する。
(院1年 元村 理乃)





4, 混成3重奏 R.ピーターソン/ Trio #1

1969年生まれアメリカ出身。作曲の他、自身もサクソフォン、ファゴット奏者として活動する。

第1楽章

冒頭は完全五度のどこか和の雰囲気を感じさせる和音から始まり、それぞれの楽器が交互に旋律があらわれる。

第2楽章

中東の民族音楽を模倣した旋律が散りばめられる。作曲者によるとアルメニアに伝わる“ドウドウク”というオーボエのようなダブルリードを持つ伝統楽器から着想を得たそうだ。

第3楽章

作曲者自身が「煌びやかな技術力を誇示することをイメージした」と話す通り、疾走感あふれるエネルギッシュな旋律が繰り広げられる。(院2年 府川 悠理)

5、混成3重奏 Iris Liu Wing Sum/1+1=3

オーボエとサクソフォンのデュオによる曲のレパートリーは世界でも数は少なく、デュオにて演奏活動している「Three Reeds Duo」は、この珍しいデュオを世に広げ、音楽の可能性を広げようと活動している。その活動の一環として、Iris Liu Wing Sumがこの曲を作曲した。

この曲は現代音楽として作曲されており、オーボエとサクソフォンによるフラッターや重音などの特殊奏法を要所で採用している。

ピアノの壮大で印象的なソロから始まり、Prestoのテンポと共に、緻密に作られたリズムと、ダブル、シングルのそれぞれのリードとピアノのトリオによって絡み合う音楽は、軽やかであり奇怪なメロディを作り出し、とても印象深い作品である。

(院1年 清 達哉)

6, 松下倫士/

フルート、アルトサクソフォンとピアノのための「ディヴェルティメント」(初演)

吉村由望さんと澁谷隆宏さんの委嘱作品として作曲しました。2つの管楽器とピアノのための作品はプーランクをはじめ様々な作曲家が作曲をしていますが、この編成のオリジナル作品はほとんど作曲されていないのではと思います。このディヴェルティメントは3つの楽章で成り立っており、自由な2部形式、3部形式、ロンド形式で出来ています。特に2,3楽章ではプーランクを意識した和声感や曲の構成になっています。3つの楽器がどのように絡み合っていくのか、楽しんで聴いていただけたら嬉しいです。(松下倫士)

7, C.サン=サーンス (編曲 松下倫士) /死の舞踏

カミーユ・サン=サーンスは生涯で4つの交響詩を残しており、本作品は3番目の作品である。元々、1872年にピアノ伴奏の歌曲として作曲され、歌詞はフランスの詩人アンリ・カザリスによるものであった。この歌詞は、“死の舞踏は毎年ハロウィンの真夜中に繰り広げられ死神は死者たちを呼び起こし、死者たちは雄鶏が鳴くまで踊り続ける。そして夜明けとともに去り、翌年まで眠り続ける”というフランスの迷信に基づいたものである。

2年後の1874年に、交響詩『死の舞踏』としてオーケストラ版に編曲された。

詩に合わせた描写的な音楽が特徴である本作品を、本学講師松下倫士の編曲で演奏する。

(院2年 望月 稜香)





Member

Flute	石井優菜	間木平美和	村松紀親	府川悠理
	山崎春奈	吉村由望		
Oboe	河村真歩			
Clarinet	元村理乃	二瀬結衣*		
Saxophone	清達哉	五十嵐蓮	澁谷隆宏	Qianyi Xiao
Trumpet	居石まどか+			
Euphonium	丸山奈央			
Trombone	望月稜香			
Percussion	青柳はる夏+	大西悠斗+		
Piano	斎藤光*	福島未紀*		

+ : 賛助

* : 演奏補助要員

運営責任者 渡部亨

指導教員 岩本伸一 松下倫士 渡部亨

アカデミックコーディネーター
野崎江里

